

全国的な課題

- ◆止まらない東京一極集中
- ◆出産年齢人口の減少に伴う出生数の激減

芦屋市の特徴的な課題

- ◆20歳代前半での東京転出多い
- ◆低い出生率

前提：芦屋市の人口は減少

目的① 人口減少に対応したまち

行政リソースが減少する中でも、多様な主体が連携し、活躍することで、地域の活力と魅力が向上

目的② 人口減少の緩和

自然減への対策：出生率を兵庫県レベルに改善(1.35→1.41)
 社会増の維持：社会増の推計維持(5年間で920人社会増)

H27人口推計と実績の比較



基本目標

本市の住宅都市としての強みの研磨を中心に基本的な目標として2つを設定

重点プロジェクト

基本目標に向け、第1期総合戦略で進めてきた事業を中心に特に推進する施策・事業横断型プロジェクト

戦略施策

基本目標達成に向けた施策

基本目標① 子育ての希望がかなう

- ◆妊娠、出産、育児まで切れ目のない子育て支援を充実し、地域で支えあう環境を充実させることで、子育て世帯の希望をかなえる。

数値目標（仮）

- ① 合計特殊出生率 1.41
- ② 子育て世代の子育て満足度

基本目標② 人がつながり活躍し、暮らしの魅力が高まる住宅都市

- ◆様々な立場の主体がともに未来を見据え行動し、さらに暮らしやすいまちづくりを進めていくことで、住宅都市としての魅力を継承し、高める。

数値目標（仮）

- ① 社会増 5年間で920人
- ② 定住意向

子育て施策の充実

官民が連携し、子育てしやすいまちづくりを進めながら、その魅力を市内外に向けプロモーションする。

地域に適した面的な取組

公共施設等も活用し、地域の特性に合わせた統一的なコンセプトのもと、官民連携し活性化に取り組む。

多様な主体の活躍推進

地域に我がごととして関わり、活躍する主体を支援するとともに、連携できる場づくりを進める。

- 1 妊娠・出産・子育ての支援
- 2 教育・保育環境の充実

- 子-1 就学前教育・保育施設の充実
- 子-2 妊娠・出産・育児への切れ目ない支援
- 教-1 未来を見据えた教育環境・子どもの居場所の提供
- 教-2 地域社会と連携した取組

- 1 地域の活性化
- 2 良質な住まい・住環境の形成
- 3 地域における福祉の充実
- 4 安全・安心なまちづくりの推進

- 地-1 地域主体のまちづくり
- 住-1 景観の保全・育成
- 住-2 庭園都市の推進
- 住-3 快適な暮らしの向上
- 住-4 まちに根ざす文化の推進
- 福-1 地域福祉の推進
- 安-1 災害に強いまちづくり
- 安-2 防犯力向上に向けたまちづくりの推進
- 安-3 安全・快適に利用できる道路環境の推進